

東京の文化財

東京都教育庁地域教育支援部管理課

目次

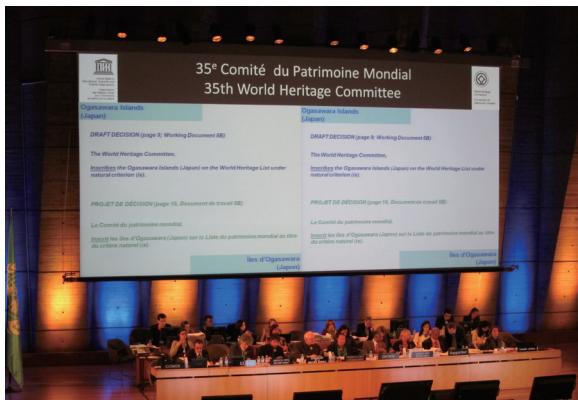
- みんなで守ろう!世界遺産 小笠原諸島……1~3
- 東京文化財ウィーク2011が始まります!

.....4~5

- わがまちの文化財(西東京市)……………6
- わがまちの文化財(青ヶ島村)……………7
- 国の新指定文化財の紹介……………8

みんなで守ろう!世界遺産 小笠原諸島

2011年6月24日パリ、ユネスコ本部の大会議場にて、議長の「可決しました。おめでとう!トウキョウ、ジャパン!」の声とともに委員全員が立ち上がり、会場後部の着席していた小笠原村代表団に向かって振り返り、会場は祝福の拍手に包まれました。東京都に世界遺産が誕生した瞬間です。



ユネスコ本部 世界遺産委員会 会場の様子

東京竹芝港からおがさわら丸に乗り込み太平洋の海原に揺られて25時間、およそ1000km離れたところに小笠原諸島父島があります。

現在、人が住んでいる島は父島と母島で、母島へは父島で船を乗り換えてさらに2時間、50kmほど南下したところにあります。

小笠原諸島は、南北約400kmに渡って散在する30余りの島々の総称です。今回の小笠原諸島の世界遺産登録はその独特な「生態系」が認められたものですが、その小笠原諸島の自然を特徴付けるのが、小笠原にしかいない「固有種」を含む天然記念物ともいえます。

いくつかの天然記念物を通して小笠原諸島の自然を見てみましょう。

オガサワラオオコウモリ(天然記念物)

小笠原諸島唯一の在来の陸棲哺乳類です。両腕を広げると1.2mほどになる大型のコウモリです。夕暮れになるとねぐらから飛び立ち、果実やヤシの葉を食べます。オオコウモリは島の重要な種子散布者であり、小笠原諸島の森林を維持するためには不可欠です。戦前は多く生息していましたが、一時期はほとんど姿を消して絶滅が危ぶまれていました。調査によって父島、母島だけでなく、硫黄島などにも生息が確認されるようになりましたが、それでも各個体群の規模は小さく、絶滅の危機を脱したわけではありません。小笠原の森を維持するためにも保護していかねばならない動物です。



小笠原村村勢要覧より(版権:安井 隆彌)

オガサワラノスリ（天然記念物）

小笠原諸島の生態系の頂点にいる猛禽類です。本土のノスリよりやや小形で、翼長約35cm前後、羽色はやや淡い暗褐色です。島の上空を滑空している姿がよく見られます。ノスリは本来北方系の鳥ですが、世界的にみれば小笠原諸島は繁殖が確認されている地域のはば南限となっています。



小笠原村村勢要覧より（版権：千葉 夕佳）

アカガシラカラスバト（天然記念物）

進化の系統から見ると、ハトの中でも原始的な種といわれているアカガシラカラスバトは小笠原諸島にしか生息しない固有亜種です。黒っぽいカラス色の体に赤い頭が特徴です。捕食者がいない小笠原の森林で木の実や虫などを食べて生息していたと思われますが、外来種であるノネコが、アカガシラカラスバトの生息に対し悪影響を与えています。地元ではノネコの緊急捕獲に取り組む一方で、林野庁ではアカガシラカラスバトの重要な生息地を保全するため、父島東平にサンクチュアリを設け保護に取り組んでいます。



メグロ（特別天然記念物）

メグロは母島とその属島のみに生息する固有種です。小笠原諸島は大陸から遠く離れた海洋島であるため、生息場所によって棲み分けした鳥類相が見られません。つまり、小笠原諸島には、地上を利用するキジ類や樹冠を利用するキツツキ類、樹洞で営巣するカラ類がいません。これらの競争者や地上捕食者がいなかつたため、メグロはこれらの環境を大いに利用し、森林内の地上から樹冠まで様々場所を利用して生息するよう進化したと考えられています。



小笠原村村勢要覧より（版権：大塚 宏幸）

オガサワラタマムシ（天然記念物）

小笠原諸島は、大陸から遠く隔たった海洋島であることから、海を渡ってたどり着けた昆虫も種類は多くなく、日本列島の昆虫相に比べて分類群の構成比が偏っています。日本列島では割合が多くないタマムシやハナノミなどの種類数が多いのですが、淡水中で幼虫時代をすごし成虫の期間が短いカゲロウや食べ物を生きている植物に依存するナナフシなどの仲間は生息の記録がありません。

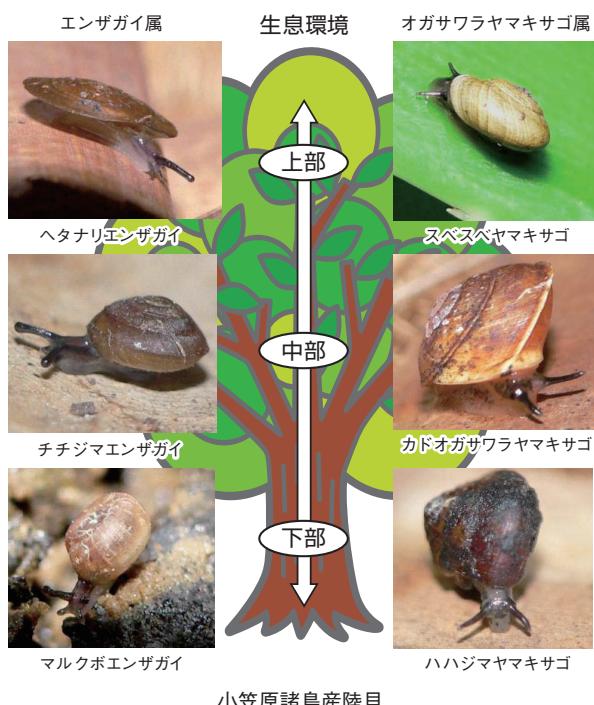


小笠原自然情報センターHPより（版権：尾園 晚）

小笠原諸島産陸貝（天然記念物）

小笠原諸島の動物たちの中で適応放散による著しい種分化を遂げたのがカタツムリです。現在までに24科44属134種のカタツムリの仲間が確認され、そのうち在来種は106種であり、実に94%に当たる100種が小笠原の固有種です。カタマイマイ属のカタツムリは、一本の木の中で、地表で落葉を食べる地上性、専ら木の上で生葉を食べる樹上性、その中間で木の上だけでなく地面にも下りる半樹上性のカタツムリが棲み分けており、この生活様式の違いによって殻の形態や色がそれぞれ異なるように進化しました。樹上性の種では殻の背が高く小型に、半樹上性の種は扁平に、地上性の種では背が高くなるという収斂進化が見られるのです。

また、殻が小さく、ナメクジへの進化の途中と思われるオガサワラオカモノアラガイなどもいます。



小笠原南島沈水カルスト地形（天然記念物）

小笠原の自然の風景で一番紹介されている父島南西部にある南島は、雨などで溶食された石灰岩地形です。地上部は鋭く尖ったラピエと呼ばれる針山のような石灰岩で覆われ、波に洗われ張り出した天然橋、溶け出した白い石灰の砂がたまってできたドリーイネと呼ばれる窪地など、亜熱帯の明るい太陽の下で見る景色は眩しいほどです。こうした地形が、この海域にも広がっており、周辺には海中鍾乳洞もあります。南島沈水カルスト地形は2000万年以前の第3紀の石灰岩が、その後の海水面の昇降が繰り返され、陸化している間に溶食が進み形成された、地球のダイナミズムを感じることができる貴重な自然です。



小笠原諸島は人類のかけがえのない世界自然遺産です。ここに小笠原諸島の自然は人の手が入ると簡単に破壊されてしまう脆弱な面を持っています。小笠原ではこの美しい自然を守るためにさまざまな取り組みが行われています。小笠原へ訪れる際は、その自然を守るために約束事があります。世界遺産を守るためにお願いです。予め調べてみましょう。

小笠原自然情報センター HP:

<http://ogasawara-info.jp/mamorutamenorule/mamorutamenorule.html>

東京文化財ウィークとは

東京文化財ウィークは、国の「文化財保護強調週間」に合わせて、都内各地にある文化財を一斉に公開するとともに、文化財に関連した企画事業もこの時期に集中的に実施しようとするものです。9月末から配布している文化財ウィークのガイドブックには、文化財ウィークに参加している公開文化財と企画事業の紹介が掲載されています。この機会にぜひガイドブックを見ながら文化財めぐりをされてはいかがでしょうか。詳細は以下を御覧ください。

都内文化財の公開

10月29日(土)から11月6日(日)までの間に、国や都の指定文化財を中心とした都内の文化財を一斉に公開する公開事業を行います。現地ではこの期間中に、写真付ポストカードの形をした文化財に関する解説カードも無料で配布しています。解説カードは現地等でしか手に入れることができませんので、文化財を訪れた際にぜひ集めてみてはいかがでしょうか。(一部公開期間外に公開する文化財があります。公開日は東京文化財ウィークのガイドブックで御確認の上お出かけください。)

～歴史と文化に 東京文化財ウィーク



小丹波熊野神社舞台



旧本多家住宅 倉

都内文化財関連の企画事業

10月1日(土)から11月30日(水)までは、文化財に関連した「文化財めぐり」や「現地鑑賞会・実演」などの企画事業を集中的に行います。文化財を中心により深く地域の歴史と文化に触れる機会になります。ぜひ御参加ください。

東京文化財ウィークガイドブックについて

東京文化財ウィークのガイドブック（冊子）を発行します。ガイドブックには、文化財ウィークに参加する公開文化財、企画事業の情報が全て掲載されています。

都庁内の観光案内所や、区市町村教育委員会の文化財担当の窓口、区市町村立郷土博物館を中心に無料で配布しています。

また、特別公開及び企画事業の情報を掲載したガイドブックに加えて、本年度から通年の公開情報を掲載したガイドブックを発行します。そちらもあわせて御利用ください。（年間の公開情報については平成23年9月22日時点の情報になります。最新の情報についてはあらためて御確認の上、お出かけください。）

触れる時間～ 2011が始まります！

ガイドステーション

区市町村立の郷土博物館を中心にガイドステーションが設置され、企画事業などの情報提供やガイドブックの配布を行います。文化財ウィークを身近に知り楽しんでいただく情報ステーションとして御利用ください。

なお、今年度のガイドステーションの設置場所はガイドブックに掲載しています。

見学にあたってのお願い！

文化財は、私たちの大切な宝物であり、そして後世に受け継いでいくべき財産です。文化財を見学するときはマナーを守って御鑑賞ください。ガイドブックには各文化財の施設情報が載っています。

撮影禁止の場所もありますので、ガイドブックや現地の指示に従ってください。

問合せ先

東京都教育庁地域教育支援部管理課文化財保護係
電話 03-5320-6862

わがまちの文化財(西東京市)

したの下野谷遺跡



縄文時代中期の集落概念図

石神井川と湧水と高台の森の恵み

西武新宿線東伏見の駅を降り、若者たちの声がこだまする早稲田大学のグラウンドを横目にし、石神井川をこえ、急な坂道をのぼった高台の上に、下野谷遺跡はあります。

戦前から土器が拾えることで有名だったこの場所は、日当たりも良く、見通しもきき、崖下には湧水も豊富で、採集や狩猟をして暮らす人たちには絶好の場所でした。近世には交通の要の青梅街道も通りました。

そのため、遺跡からは旧石器時代・縄文時代を中心として、江戸時代や近代まで、人々の活動の痕跡が多数発見されています。



19次調査で発見された住居址（上）
と下野谷遺跡公園（右）



しーた のーや
©S.Takishima2007



下野谷遺跡公園：西武新宿線東伏見駅南口下車徒歩7分（通常開園）

郷土資料室：西武新宿線田無駅・西武池袋線ひばりヶ丘駅から西武バス「田44系統」乗車「西原グリーンハイツ」下車徒歩5分（月・火休）

縄文時代の2つのムラ

なかでも縄文時代中期には、2つ以上のムラがあつたことが確認されています。これまで、全体の1/10ほどが発掘されていますが、発見された住居の数はすでに450軒をこえ、中央に広場や墓域をもち、掘立柱建物（倉庫？）もある環状集落が約1000年間にわたり続いていたことがわかつてきました。土器や石器などの遺物量の多さからも、石神井川流域の拠点集落の一つと考えられています。

土器は勝坂式や加曾利式を中心としますが、曾利式など中部地方の土器もあり、遠方の人々との交流もうかがい知れます。

遺跡の一部は「下野谷遺跡公園」として地下に保存され、市民の憩いの場となるとともに、春や秋のお祭りなどを通じ、縄文時代を足下に体感できる場所にもなっています。遺跡からは離れますがないが、出土した土器や石器には郷土資料室で触ることができます。

昔も今も人々の笑い声がはずむ下野谷遺跡は、西東京市の宝物、大切な文化財の一つです。



東京文化財ウィーク 2011 参加企画

第5回 縄文の森の秋まつり

10月9日（日）10時～16時

下野谷遺跡公園にて・参加無料・駐車場無

*雨天の場合は10日（月・祝）に順延

問合せ先

西東京市教育委員会教育部社会教育課

電話 042-438-4079 FAX 042-438-2021

西東京市HP <http://www.city.nishitokyo.lg.jp>

青ヶ島

青ヶ島は八丈島から南へ70kmの所に位置します。面積5.98km²、周囲9kmの島です。人口は200人もいな日本一小さな自治体です。

島は二重式火山で、火口の一部からは今でも蒸気が噴出しています。この蒸気のことを島の方言で「ひんぎゃ」と言います。火口の中には地熱を利用したサウナや、海水を地熱で蒸発させて作る「ひんぎゃの塩」工場などがあります。また温暖な気候と一年を通して比較的穏やかな内輪山の環境を利用して観葉植物栽培の温室が点在しています。森林の中にはタニワタリが群生していて、海草で茂る海底を思わせるような神秘的な風景が広がります。

集落は火口の外に位置します。島の住所はすべて「青ヶ島村無番地」です。



天明3年から5年(1783~85)の大噴火で、島民たちは八丈島に避難しました。その後旧地再興を指導し、還住を果した名主が佐々木次郎太夫です。次郎太夫は青ヶ島に生まれ嘉永5年(1852)に死去するまでの86年間を青ヶ島のために尽くした英雄です。次郎太夫の肖像画や墓は、東京都の文化財に指定され島で大切にされています。また長年にわたり、島民とともに青ヶ島郷土芸能保存会が中心になって大切に守ってきた「青ヶ島の島踊り」が、平成23年6月に東京都指定無形民俗文化財に指定されました。

アクセス

- 八丈島空港から東邦航空(ヘリコプター)で20分
- 八丈島八重根漁港から船(還丸)で3時間半
必ず宿を予約してからお越しください。

1 紙本着色佐々木次郎太夫伊信肖像并伝

(近藤富蔵筆)

佐々木次郎太夫伊信は、柳田国男によって「青ヶ島のモーゼ」と讃えられ青ヶ島還住を果した名主です。「伊豆国青ヶ島佐々木次郎太夫肖像并伝」には、鳥の子紙(雁皮を主原料として漉いた和紙)に26行にわたって次郎太夫の事績が記述されています。撰文は近藤守真(富蔵)、書は相沢匡倫によるものです。天保15年(1844)7月26日には老中真田幸貫(天保の改革を水野忠邦とともに推進した信濃松代藩士)の命により勘定奉行戸川播磨守安清の役宅で「公儀ノ御入用ナク開発セシニ依テ一代苗字御免オオセツケラレ」ました。肖像画は次郎太夫伊信の死去から5年後の安政4年(1857)に、佐々木家の子孫が近藤正齊守真(重蔵)の長男聞齊守真(富蔵)に描かせたものです。

2 佐々木次郎太夫墓

次郎太夫は嘉永5年(1852)死去後、法名を松蓮院音誉智山居士といい、墓所は海の見える塔の坂墓地の佐々木家墓所にあります。



紙本着色佐々木次郎太夫
伊信肖像并伝(近藤富蔵筆)



佐々木次郎太夫墓

3 青ヶ島の島踊り

(平成23年6月 東京都無形民俗文化財 新指定)

島踊りは、航海で寄港したり漂着した船乗りたちが伝えたものや、近隣の八丈島から伝播したもの、青ヶ島で作られたものが混在しています。情報・文化の伝播が容易でない絶海の孤島に、単なる娯楽以上に歌や踊りが大切にされてきました。夜毎に唄や踊りを披露してもてなす一方、来訪者に唄や踊りをせがんで熱心に覚えたといいます。現在伝えられている形に曲が整ったのは、明治から大正時代、或いはそれ以前のことと考えられます。唄は無伴奏で「ア・シッチョウ」という合いの手の印象から島踊りは「シチャシチャ踊り」とも呼ばれます。また唄・囃子詞(ことば)・踊りの振りによって分類され、唄の多くは口説節で、七・七・七・七か七・五・七・五の4句からなる節を繰返す、心中や情話が主の長編物語唄です。そのほかにも歌詞が七・五の「一つとせ」で始まる数え唄や即興唄、伊豆諸島の他の島でも伝わっている「ショメ節」などがあります。



月見や盆踊り、学校行事や村のイベントなどで島民みんなで踊ります。

問合せ先

青ヶ島村教育委員会
住所 東京都青ヶ島村無番地
電話 04996-9-0201(8:30~5:15)

国の新指定文化財の紹介

明治神宮宝物殿と聖徳記念絵画館

明治神宮といえば、渋谷区代々木一帯に広がる杜を思い浮かべる方も多いでしょう。この鬱蒼たる杜は、実は近代になって植樹されたものです。もともと御料地で畠と荒れ地がほとんどであったようで、明治天皇と昭憲皇太后を祭る神社を造営するため、全国各地から10万本もの木が奉納されたのでした。また新宿区霞ヶ丘一帯に広大な敷地を構える明治神宮外苑も、明治天皇と昭憲皇太后の事績を記念するため、青山練兵場の跡地に様々な文化施設が造営されたものです。

明治神宮の本殿は内務省に設置された明治神宮造営局により、大正4年から同9年にかけて造営されました。創建時の建物として、本殿の奥・境内の北辺に大正10年(1921)に竣工した明治神宮宝物殿が現存します。宝物殿は、明治天皇ゆかりの御物を収蔵・展示するための施設で、中倉(2棟)、東西廊(2棟)、東西橋廊(2棟)、東西渡廊(2棟)、北廊、車寄、事務所、正門の、併せて13棟からなります。設計は明治神宮造営局の大江新太郎です。宝物殿には、不燃構造であることと、かつ木造和風の本殿と調和する和風のデザインであることが求められていました。そのため、構造は鉄筋コンクリート造で、寝殿造りに想を得た左右対称の配置に、東大寺正倉院から連想した校倉造風の外観が大きな特徴です。特に中心展示施設である中倉は、独立柱で支えられた高床式の外観と、展示室の大空間が見事で、力強い造形表現となっています。建物全体を鉄筋コンクリート造とした和風意匠の建築物ではわが国最初期のものであり、建築技術史上においても重要であると評価されています。

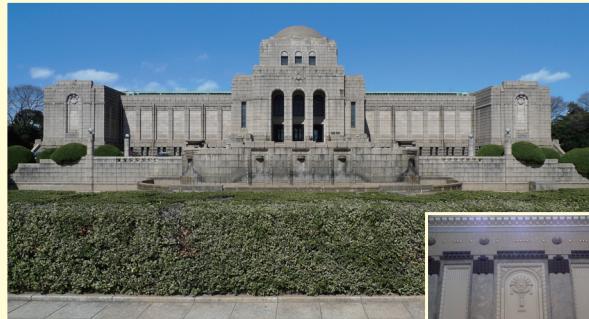
明治神宮外苑は神宮の東方にあります。青山練兵場の跡地に、明治天皇と昭憲皇太后を記念し、野球場、競技場等の文化施設を建設したもので、現在も約30万平方メートルの敷地があります。青山通りから鉛直にとっ



明治神宮 宝物殿 中倉

た中心軸上には、南半分にいちょう並木を、北半分には南から丸池、屋外球技場、角池、聖徳記念絵画館、葬場殿趾を一直線に並べます。その中心施設である絵画館は、明治天皇と昭憲皇太后の事績を描いた絵画を展示する美術館として計画され、設計競技の一等当選案(小林まさづく正紹案)を原案とし、明治神宮造営局の高橋貞太郎らが実施設計を行いました。大正8年に着工し、関東大震災の影響により一時工事が中断されますが、大正15年(1926)に竣工しました。聖徳記念絵画館は、わが国最初期の美術館建築で、当時最新流行のセセッション様式による直線を強調したデザインと、花崗岩による重厚な仕上げにより、象徴性の高い外観となっています。建物中央にドーム屋根を戴き、その直下の吹抜大広間の左右に絵画室を配し、内部は大理石やモザイクタイルで壮麗に飾られます。またドームのシェル構造や絵画室の採光などに先駆的な技術が取り入れられ、わが国の建築技術の発展を知る上でも重要であると評価されています。

明治神宮宝物殿と聖徳記念絵画館は、こうした近代に於ける文化施設の先駆けとして、平成15年度に東京都景観条例の都選定歴史的建造物に選定され、さらに平成23年6月20日に、国の重要文化財(建造物)として新たに指定されました。



聖徳記念絵画館



編集後記

今号では、6月に世界遺産登録が決まった小笠原諸島の特集を組みました。天然記念物として文化財に指定されている生物を中心に、小笠原特有の自然を紹介しています。また、10月から「東京文化財ウィーク2011」が始まります! 今号の編集を通じて、東京にはさまざまな文化財があることを改めて感じました。

平成23年9月30日

発行 東京都教育庁地域教育支援部管理課

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

電話 03(5320)6862